



2011～2012 年度 1 2 月



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

浪江ロータリークラブ

The Rotary Club of NAMIE

◆ 会長の時間 ◆

2011年も残すところあとわずかとなりました。

2011年の3月11日はこの世界を動かしているものが人ではないことに打ちのめされた日です。「絶対」というものの概念が揺らいでしまった日でもあります。

時が止まってしまったかにみえましたが、浪江ロータリークラブの会員の中にも新しい土地で仮事務所をつくり仕事を再開された方、発電所の中に入り事故収束の為に一生懸命頑張っておられる方、家族と離れ慣れない家事に戸惑いながらも新たな楽しみを見つけられた方など様々な形で前に進み始めています。

地域の復興はまだまだ難しいですが、心の復興はもう始まっています。

暮れに入り原町ロータリークラブ、郡山西北ロータリークラブ、八街ロータリークラブそして友好クラブでもあります越谷北ロータリークラブなどからクリスマス例会のお誘いを受けました。ありがたいことです。

お誘いを受けた全てのクラブに出席をしたかったのですが、なかなか日程があわず全て参加することができず申し訳ありませんでした。

同じ相双分区の原町ロータリークラブ主催の3クラブ合同クリスマス例会では最後に「故郷」を全員で合唱しました。

心の中の故郷は、山は青く水は清いままで、ま

さしく忘れがたき故郷であり、今も原発の中でご苦労されている会員の皆さまにとりましては、「志をはたして いつの日か帰らん」と頑張っておられることと思います。いろいろな意味を頭に描きながら歌わせていただきました。



さて、今年度は活動らしい活動もあまりないままに半分が終わってしまい、リーダーとして会員の皆さまのご期待にそえないことを申し訳なく思っていますが、まもなく次年度へのシフトの準備もしなくてはなりません。

通常クラブは、クラブ内にロータリーの本質を理解する洞察力を常に養い、それを実践する指導力がある強力なリーダーと、それを支援する数人の会員が存在するとそのクラブの勢いは出てくるといわれています。

今年度の浪江RCの目標のひとつに「クラブの存続」を掲げていますが、今のところ転勤された1人を除いて退会者はでておりません。しかし会員であっても今の避難状況を考えるとモチベーションの持続はなかなか困難で、クラブの勢いど



ころか失速しかねません。

そこであらためてロータリークラブとは何か、そしてロータリアンであることで何が得られるかをもう一度自ら考えてみてください。

ロータリアンの皆さんは日本はもちろん、世界中のどこのクラブの例会や会合にも出席することが出来、知り合いの輪を広げ、好意と友情を深め、奉仕の機会が作れます。米山梅吉氏の言葉をかりるならば、ロータリーの例会は人生の道場です。多くの事を学ぶ機会を持っています。

どうか皆さま、時間のある時にはお近くのクラブにメーキャップされ、ロータリアンとしての精神を持ち続けてください。

来年は皆さまにとりまして新しい希望の年がありますようにお祈り申し上げます。

◆ クリスマス例会のご報告 ◆

【 浪江・小高・原町合同クリスマス例会 】

12 月 15 日南相馬市のニューさいとうにて原町ロータリークラブ主催で浪江・小高・原町 3 クラブ合同クリスマス会が開催されました。

当クラブからは伊藤会長、小丸直前会長、熊川会員、今野会員、椎名会員、増子会員、林隆壽会員、木口会員、吉田の計 9 名での参加でした。

小高、浪江クラブは招待という形で原町クラブさんの至れり尽くせりの心のこもった素晴らしい内容でした。

会場には「故郷にお帰りなさい」との看板まで設置していただき、例会ではロータリーソングの後に、ふるさとを全員で合唱しました。

今回の会に参加させていただき、改めてロータリアンの友情を感じました。

長引く避難生活で会員の皆様もお疲れとはお察しいたしますが、今後開催予定の例会には多くの会員の皆様のお顔を拝見できればと思っております。(吉田 政輝)

兎追ひし かの山

小鮒 (こぶな) 釣りし かの川

夢は今も めぐりて

忘れがたき 故郷 (ふるさと)

如何 (いか) にいます 父母

恙 (つつが) なしや 友がき

雨に風に つけても

思ひ出 (い) づる 故郷

志 (こころざし) を はたして

いつの日にか 帰らん

山は青き 故郷

水は清き 故郷

【 越谷北 RC の友情 】

寒風吹きすさぶ暮れも押し詰まった 12 月 22 日、友好クラブ越谷北ロータリークラブ家族同伴クリスマスパーティーに浪江クラブを代表して、川橋幹事、作山パストガバナー、伊藤事務局の 4 名で出席しました。

会場は南越谷駅前。電飾がまぶしい越谷コミュニティセンター。さかのぼること 15 年前！越谷北ロータリークラブ 20 周年記念式典会場ただけに懐かしさが込み上げる。

井戸川、田巻年度で初めて友好クラブを締結した思い出深い場所だ。

出迎えてくれた大勢の会員の中から、時の小河内梅幸パスト会長は当時のことをこう語る。

「浪江には海があり景観もすばらしいし、原発があり地盤も強固で安全な地帯。関東に大きな災害が発生した場合の避難場所として私たちは全面的に受け入れ、支援したい。井戸川会長が胸を張ってあいさつで述べていたことが皮肉にも立場が逆転してしまった。」云々。耳の痛い話してはあるが、だからこそ、この原発事故の惨状を誰よりも心配し、友好クラブとして同胞として同じ



痛みを分かち合い、実質役に立つ援助をしたい、と原発事故避難が始まった直後から堀野前会長、石川前幹事が幾度となく私たちに申し入れ、協議し、浪江ロータリークラブを通じて浪江町に金円を寄付することを決めました。

越谷北ロータリークラブが予定していた35周年の記念事業を取りやめ、その予算と、女性部が旅行積み立てしていた資金を合わせて100万円を第1回とし、海外姉妹クラブから寄せられた見舞金と越谷第8グループから募金を募り、第2弾として再び100万円と数十点に及ぶ支援物資を浪江町役場に届けられました。

さらに堀野パスト会長は、クラブ内に『浪江ロータリークラブ支援委員会』を創設し、自らが委員長に就き、年度が替わってもこの活動は越谷北クラブの重点事業として強力に推進していくことを、宮崎現会長に引き継いでいます。そしてつい先日行われた第2770地区第8グループのIMでも浪江の惨状を訴え、集まった義捐金を本日のクリスマス例会で川橋会長代行に贈呈されたのです。

越谷北ロータリークラブの皆さんの真の友情、堀野パスト会長の熱意には琴線に触れる感動がありました。堀野会長は最後に「周年事業よりもはるかに意義があるのだ。」と笑顔で言っておられたのが印象的でした。

このような経緯を離れ離れで疎遠になっている会員の皆さんにいつかお伝えしたいと考えておりましたが、折りよく事務局より原稿の依頼がありましたので「友好クラブ担当」の任を果すことが出来ました。

いつ故郷に戻れるのか先行き不透明な中でもいつの日か何かの形で恩に報いられる日が来ることを願い、越谷を後にしました。

(友好クラブ担当・パスト会長 今野 庄治)



◆ 幹事報告 ◆

- ① 24年3月25日(日)第2530地区の地区大会が郡山市ユラックス熱海で開催されます。会員の皆さまへは郵送にてご案内をさせていただきますいておりますが、期日内に出欠の連絡をいただけますようご協力お願いいたします。
- ② 会社の人事異動により、吉田昌郎会員のかわりに高橋毅さんが、太田喜代次会員のかわりに佐藤和芳さんが浪江ロータリークラブの会員になりました。正式には1月の理事会をもって承認となります。
- ③ 避難先を移られた方、携帯番号以外にメールアドレス、固定電話やFAXなど設置された方は事務局までご連絡ください。



1 2月現在の会員の避難先

【福島県 いわき市】

熊川喜八郎 会員 前司 昭一 会員
永田 茂男 会員 山内 誠一 会員
水野 貴雄 会員 柳沢 久男 会員
三枝 努 会員 増子 義夫 会員
柏原 進 会員 佐藤 和芳 会員

【福島県 福島市】

渡辺 寿亮 会員 朝田 宗弘 会員
伊藤 公明 会長 重富 秀一 会員
三瓶 浩徳 会員 吉田 政輝 会員
浅見 公紀 会員 泉田 征慶 会員
小桧山茂雄 会員 苗村 茂樹 会員
林 隆壽 会員

【福島県 二本松市】

松崎 俊憲 会員 加藤 洋子 会員
中西 聰一郎 会員

【福島県 郡山市】

松原 靖 会員 佐藤 章 会員
吉田 俊哉 会員

【福島県 相双地区】

木口 拓哉 会員 小出 博一 会員
高橋 毅 会員

【福島県 会津若松市】

志賀 廣三 会員 下宮 秀三 会員
青田 文彦 会員 佐藤 定信 会員

【福島県 田村市】

遠藤 幸雄 会員

【宮城県】

松本 定雄 会員 小丸 真司 会員
叶 経道 会員

【新潟県】

松本 英明 会員 菊井 正一 会員
志田 統一 会員

【茨城県】

椎名 康雄 会員

【栃木県】

岩本 清孝 会員

【埼玉県】

松本 茂子 会員

【東京都】

作山 博之 会員 林 譲二 会員

【神奈川県】

小宮山久志 会員 梅田 壽嘉 会員
早川 正子 会員

【長野県】

今野 庄治 会員 川橋 昭義 会員

